

第5章 東武桐生線（赤城～東小泉）

東武小泉線（西小泉～館林）

第1節 東武桐生線（赤城～太田）

赤城(9:36)～相老(11:00)～新桐生(11:55)～阿左美（あざみ、12:47）～
薮塚(13:49)～治良門橋(14:51)～三枚橋(15:34)～太田(16:36)

七夕である2007年7月7日（土）は、東武桐生線の赤城駅から太田駅までの20.3Kmに挑戦する。天候はうす曇でこの季節としては最高のコンディションであった。昨日は東京ドームホテルでフコクアクチュアリー会の総会があり、睡眠不足であったが、4時半に起床する。6時5分発の南林間の電車に乗る。電車は何時もより混んでいたが、相模大野駅で乗客がどっと降り代々木上原まで運良く座れる。代々木上原7時発の電車で北千住駅まで行く。北千住からは7時51分発の特急りょうもう3号で赤城駅まで移動する。特急は一昨年の東武日光線の踏破以来の利用である。北千住から赤城駅まで特急料金を含め2,160円要す。それから霞ヶ関から北千住までの乗り越し料金として230円要す。特急は6両編成だった。窓側席（5号車64番）が運良くとれ、快適な気分で赤城駅まで移動することができた。窓から見る風景や通過して行く駅はどれも懐かしく思えた。しかし、駅名の大半は忘れかけていた。春日部駅や新越谷駅等は野田線・武蔵野線の合流駅であるためはっきりと電車の窓から識別できた。睡眠不足のため車中は眠り眼であった。



太田駅から赤城駅までは、新たなコースのため本日の歩きコースを観察する。大きな川や山もなく、比較的簡単なコースに思えた。ただ、両毛線・わたらせ渓谷鉄道線・上毛電鉄線が桐生から赤城にかけ登場し、歩きを複雑にしていた。相老（ようろう）駅でわたらせ鉄道、終点の赤城駅で上毛電鉄が接続していた。赤城駅には9時36分に到着。

立派な七夕飾りが駅舎の中を飾っていた。東武鉄道と上毛電鉄の窓口が2から3mはなれてあった。



赤城駅

駅前で記念写真を撮ってから、相老駅を目指す。いきなり県道 78 号線を誤って進む。線路が一向に見えず地図で方向を確認する。時計による方向の確認を昨日覚えたばかりであるが、うす曇のためこの手法を使えず。すなわち、短針を太陽に向け、12 と太陽の中間が南の方向という判断である。やはり、間違った方向に進もうとしていた。太田まで 17km と見て変だと思った。方向性は正しいが、鉄道のつたい歩きとは無縁な方向だった。それで急遽鉄道に向かって歩く。しかし、かなり乖離していたので、鉄道に近づくのに骨が折れる。二人の女性に助けて頂く。30 分位はロスしたかも知れない。東武線とほぼ並行に走る如来堂大間々線（桐生市桐生町）に出る。道路から駅が見えるので、近づこうとしたが、フェンスが邪魔して入れず。踏切を渡り 300m 位迂回する。しかし、その駅は東武の相老駅ではなかった。車両がグレーイとピンクである上毛電鉄の桐生球場前駅（10 時 33 分）だった。駅前の向こうの広場には球場のほかプールもあった。相老駅近郊は上毛鉄道とわたらせ渓谷鉄道が複雑に絡み合っただ道に迷いそうになったが、数人の住人に聞き何とか相老駅に 11 時無事到着することができた。マンションから陸橋があり、駅に繋がっていた。わたらせ相老駅は東武鉄道とわたらせ渓谷鉄道が並行してあった。相老駅は両毛線の国定駅と同じような青の文字盤であった。おそらく元第三セクターであったと推察される。



相老駅

相老駅から新桐生駅まで丘とわたらせ渓谷鉄道・JRが絡み中々越えられず（11時15分）。途中、こげ茶色した1両編成の非電化の電車を見かける。相老駅への道のりでも見かけた。最初東武鉄道の貨物列車かと勘違いしたが、実際にはわたらせ渓谷鉄道の車両であった。75歳位の年輩の方から親切にも「この道は行き止まり、越えられない。戻るしかない。」と声をかけられる。迂回する方法は二通りあったが、わたらせ渓谷鉄道がからまないコースを選択する。途中、この年輩の方は自転車でこられ、少し早目で左折しようとする、「もう少し先」と助言を頂く。このような親切な行為を受けたのは、つくばエクスプレス線に継いで今年2回目の経験である。やっと大通りに出て両毛線の葦中踏切を11時36分越える。直進した先に十字路の交差点があり、左折すべきか直進すべきか迷う。芝生を手入れしていた人に聞き、直進との回答を得る。左折を考えた理由は、東武鉄道が全く見えず不安になったからである。11時55分、踏切を越え200m位戻った先に新桐生駅があった。駅名を黄金色にもつ緑色をした洒落た駅舎であった。この近郊は両毛線踏破の際来たことがあるが、JRの桐生駅がどの方向にあるか検討がつかず。先程の踏切の近くのFlying Garadenというハンバーグ専門店に12時5分入る。レストラン風の洒落た店だった。ここで20分程度休息する。



12時40分みどり市に入る。いつの間にか薄日がさしていた。帽子の下に手ぬぐいを被り日焼け対策をする。12時47分、阿左美（あざみ）到着。13時6分、左阿美下原交差点に差し掛かる。直進は伊勢崎方面、左折は太田方面であった。朝一番で誤った78号線に出て太田駅を目指す。13時18分、太田市に入る。13時41分、鉄道に沿った草むらでモンシロチョウの群に出くわす。この季節では珍しく思えた。駅看板が東武鉄道のトレードマークの蕨塚駅に13時49分到着。治良門橋駅には14時51分に到着。日差しが強くなる。



藪塚駅

治良門橋駅



これまで 24 年余のウォーキング
で最も難しい読み方の駅名

※治良門橋駅（じろえんばし）

15 時蛇川を越え、三枚橋駅には 15 時 34 分到着。15 時 36 分下りの特急電車とすれ違
う。太田駅近郊では七夕祭りが開催されていた。15 時から巨人＝ヤクルト戦の野球放
送を聴きながらの歩きとなるが、GG と巨人打線が振るわず 0 対 9 で大負けする。駅前
に新田義貞の銅像がある太田駅には 16 時 36 分に到着。太田駅発 17 時の久喜行きで自
宅に向かう。久喜駅で急行中央林間行きがあったが、久喜から JR 線で乗り換え新宿経
由にて自宅に向かう。結果的に中央林間の経由より早く帰れた。本日の営業距離は
20.3Km、万歩計で 49,070 歩だった。帰りの電車代は 1,600 円要す。本日の歩きを通じ
て、上毛電鉄とわたらせ渓谷鉄道への挑戦意欲がわいてきたのが大きな収穫だった。ま
た、夏日としては歩きやすく、東武鉄道全線の踏破の目処がたつ一日でもあった。



三枚橋駅

義貞マークのある七夕



新田義貞像 太田駅

第2節 東武小泉線（館林～西小泉）



朝の館林駅

<往路行程>

館林(9時前)～成島(9:42)～本中野～篠塚～東小泉～小泉町～西小泉

※成島から歩きは取りやめ、西小泉までは電車で移動

西小泉からタクシーで会場に移動

<復路行程>

西小泉(16:16)～小泉町(16:35)～東小泉(16:45)

第244回目のウォーキングは平成20年11月30日(土)晴れの中実施。久しぶりの歩きである。東武小泉線は本年の早い時期にやりたかったが、色々の行事等が重なり本日となった。大きな引き金になったのは、この沿線にある大泉町文化むら大ホールで群馬大学主催の第9回多文化共生シンポジウム中の一駒で、長男がパネリストとして登場することになり、その晴れ姿を見に行くためである。このシンポジウムがあることは、11月24日(月)に孫の保育園手続きのため子守をたのまれて出向いた際、長男からチラシをもらって知った。それで急遽東武小泉線に挑戦することを思いついた。

5時に起床し、以下のダイヤで館林駅まで移動する。

①南林間6時20分 ②新宿7時24分(宇都宮行き) ③久喜9時27分(館林行き)
館林には9時少し前に到着する。パスモのため、小田急線、JR線そして東武線とスムーズに乗り継ぎができる。3線以上の乗り継ぎはパスモに切り替えて初めての経験である。非常に便利なので大変助かった。館林駅前の狸をカメラに収めて西小泉駅に向けて歩く。



伊勢崎線第303号踏切道を9時6分横切り鉄道の左側に出る。踏切を少し渡った先に正田醤油(株)研究所があった。9時25分、2両編成の下り電車が鉄道沿線に沿って歩いている私を追い越して行く。館林から2.6Km先の成島(なるしま)駅には9時42分到着。ここで駅員さんに西小泉までの大まかな道筋をお尋ねする。鉄道の左側を歩く方が望ましいとの助言を頂く。また、西小泉まで平坦な道とのお話も頂く。「私は時間を見つけこれまで関東圏を中心に鉄道つたい歩きをしてきました。関東圏の鉄道は概ね踏破しました。その中で東武線も小泉線を歩けば概ね踏破します。ほかに東京から高槻までのJR線も踏破済みです。」のような自慢話すると非常に感服したようであった。

それからこの駅踏破を機に念のため、本日のシンポジウムの時間割について携帯電話にて確認することにする。後の会場で判明したのであるがこの電話は蛇足であった。予期せぬ回答で思わず頭が真っ白となる。当初、長男が登場するパネルは14時50分から

のスタートと考えていたが、電話による回答は11時からだというので驚く。

それで急遽歩きを取り止め電車で西小泉まで移動し、タクシーで会場に向かう方針とする。運良く数分で西小泉行きの電車が来るとのことで安堵する。駅員さんによると西小泉までの所要時間は15分程度とのことであった。成島駅9時59分発の電車に乗る。参考までに次の電車は1時間後となり危ういところであった。この駅で上り電車と離合となる。電車は田園のど真中を走る。東小泉でも離合となる。この駅から太田経由で赤城駅までの桐生線も続いていた。この駅で5分程度停車する。非常に停車時間を長く感じる。西小泉駅には10時20分に到着。早速、タクシー乗り場に移動し、大泉町文化むらまでタクシーで行く。タクシーの運転手と世間話をする。この町はブラジル人が創った町とのことで、ブラジル出身の人が5千人位住んでいるとのことであった。私も本日の訪問の目的について話す。乗車時間は7～8分程度要す。町並みは碁盤のように理路整然としていた。10時半頃会場に到着し、シンポジウム受付をして会場に入る。受付の方がとても親切であったので、誤報による電話の応対を忘れることができた。式次第を見て長男のチラシが正しかったのだが、受付の親切な女性によると長男が先程入ったばかりとの情報を頂く。



会場に入ると「学生たちは何を学び・考え・行動したのか」のパネルディスカッションの最中であった。長男の姿がドアを開けると正面前方にあったが、敢えて近くには座らず後方の席に空席を見つけ座る。先客が200名位いた。休憩を5分程度はさみ寺石雅英氏（群馬大学社会情報学部教授）によるパネルディスカッションがあった。プロジェクトに参画した学生並びに卒業生がそれぞれ4人ずつパネルリストで登場した。パネルリストの出身地がかつて鉄道つたい歩きで踏破した太田や桐生等の地名が出てき懐かしく思えた。司会進行がとても上手で内容もうまくまとめていた。12時時間厳粛に終わる。会場から数分歩いた先の「キッチンしみず」で生姜焼き定食を注文する。先客に子供連れの家族3名がいた。途中で4人の家族連れが来る。この店で30分程度休憩をとる。とても美味しい定食であった。この店を出て少し散歩を済ませて、会場に戻る。午

前中の親切な方から「昼食のご案内もしなくて申し訳ありません。」と謝罪される。「ちゃんと近くにありました。」と回答する。



キッチンしみず カポエイラ

会場に入るとリマ・ウイルソン（アートブラジル代表）と門下生による「カポエイラ」という芸のアトラクションがあった。俊敏な動きのショーであった。このショーはその昔奴隷制度時代の縁（午後の福地先生のお話であり）とのことであった。足蹴り、空手、回転といった動きが随所にあった。数人の学生が舞台に飛び入りで加わり、プロの動きを真似てカポエイラを演技する。舞台は益々白熱する。30分程度続く。



長男登場のパネルディスカッション

楽しいアトラクションの後は、午後のパネルディスカッションとなる。演題は多文化共生社会づくりに貢献する人材の育成（群馬大学モデルの成果と可能性）であった。司会

は声が非常に通るさわやかな口調の結城 恵氏（群馬大学教育学部准教授）で行なわれる。このパネルディスカッションの式次第は次の通り。

その1：群馬大学における「多文化共生教育・研究プロジェクト」のインパクト（13：30～14：40）

福地 豊樹（群馬大学教育学部教授）
落合 延高（群馬大学社会情報学部長）
田村 遵一（群馬大学医学部附属病院総合診療部長）
佐藤 由美（群馬大学医学部保健学科教授）
片田 敏孝（群馬大学大学院工学研究科教授）

その2：群馬大学モデルの高等教育におけるインパクト（14：45～15：45）

林 大樹（一橋大学大学院社会学研究科教授）
伊藤 彰浩（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授）
檜原 洋平（（株）リンクアンドモチベーションエントリーマネジメント事業部
人材育成プロジェクトマネジャー）

その3：群馬大学モデルの多文化社会におけるインパクト（15：50～16：50）

芝田 政之（文部科学省大臣官房国際課長）
山口 和美（群馬県生活文化部国際課長）
登坂 利彦（大泉町教育委員会教育長）
二宮 正人（サンパウロ大学法学部教授
・CIATE 国外就労者情報援護センター理事長）

「多文化共生教育・研究プロジェクト」結城推進室長の言葉（16：50～17：00）

上記のうち、その2まで拝聴する。どのパネリストも含蓄のあるお話であった。司会の進行のテンポがよく円滑に進む。我が子の番まで胸がドキドキする。司会者の方からリンクアンドモチベーションについて会社内容のコメントがある。「小笹社長は著名人。この会社は学生に大変人気がある。委託すると相当の費用を要する会社……。」そのような冒頭のお話後、いよいよ洋平のスピーチとなる。長男はそうそうたるメンバーの中で、あがることなく普段着で歯切れよく自分の持ち味を出して、威風堂々としゃべっていた。スピーチ方法も結論を述べてからの流れだったので聞きやすかった。社会人となって相当切磋琢磨したのであろう。しゃべる内容も推敲に推敲を重ねていた。また、これまで100社程度訪問した際の人事担当が望む人間像を出しながらの具体的例示によるスピーチは学生に大変な好印象を与えた他、相当な説得力もあったのではないかと思う。コミュニケーション力の重要性や一言でまとめる能力の意義を強く訴えていた。特にこのような基本的な能力は大学2年生位までのみにつけるのが望ましいと。それか

ら意見に相違があるときはとことんまで話すことも。自分の子供の成長を感じた瞬間であった。それから、林先生の国立市の歴史や一橋大学と国立市の関わりについても大変勉強になった。また、伊藤先生の学士力の意義についても大変勉強になった。

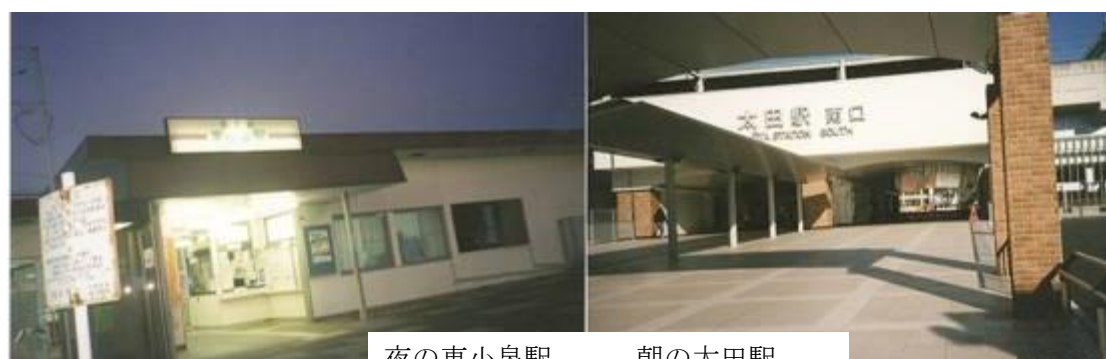
受付にお礼をいい、大泉町文化むらホールを 16 時前に出る。1.5Km 先の西小泉駅を目指す。西小泉駅には 16 時 16 分に到着。駅前で楽しそうに歩いている若い男女のブラジル人と出会う。

西小泉駅からは多少遠回りになるが、鉄道の右側をつたい歩きする。辺りは少し薄暗くなりつつある。途中から桜並木が続く。桜並木の近くには川のような貯水池があった。土手に沿ってビョウヤナギの看板があった。無人駅の小泉町には 16 時 35 分到着。それから本日の終着駅となる東小泉駅には 16 時 45 分到着。17 時 00 分の電車で家路に向かう。館林駅と久喜駅で乗り継ぎに時間を要し、自宅には 20 時 40 分の到着となる。本日の営業キロは 4.8Km で征服感はなかったが、西小泉から東小泉まで踏破することにより、太田から成島までの踏破の見通しがたった。また、色々教養を深める機会を得たほか、長男洋平の素晴らしいパネルを聞き充実した一日となった。なお、万歩計は 21,370 歩となった。



西小泉駅

小泉町駅



夜の東小泉駅

朝の太田駅

第3節 東武桐生線（太田～東小泉）

東武小泉線（東小泉～館林）

東武桐生線・小泉線の仕上げは、本年最後の12月28日（日）快晴の中挑戦する。本日のコースは以下の20.1Kmとなる。

太田(10:03) → 竜舞(りょうまい, 11:16) → 東小泉(12:34)
→ 篠塚(13:15) → 本中野(13:54) → 成島(15:07) → 館林(15:35)

6時前に起床して、南林間6時59分発、新宿8時7分発、久喜9時8分発の電車で伊勢崎線の太田駅まで移動する。太田駅は10時3分到着。館林から太田駅までの風景は久しぶりとなる。県(あがた)や野州山辺(やしゅう)と言った駅名を耳にする。非常に懐かしく思える。ここで滋賀県の野州(やす)との発音の違いが判明する。館林駅から大きな荷物を持った老婆が電車に乗り込んで来る。見知らぬ人のお世話を受け荷物を電車に運んでいた。太田駅手前の駅で大きな荷物を背負としていたが、足がすべって抱えられないようであった。それで太田駅到着手前で小子に「旦那さん助けて頂きませんか」と電車の通路を数メートル歩いてくる。老婆は私が頼みやすそうな人物に見えたのだろう。「いいですよ」と応対する。当初は二つ目の荷物を電車から降ろすだけだと思っていた。「旦那さんはどこまで行くのですか」と質問あり。「東小泉まで行きます」と応対。次に「荷物を駅の外まで運んで貰えませんか。知り合いが車で迎えに来ている」との応対あり。それで、ご要望に応じ駐車場まで荷物を運んであげる。荷物の中身は餅とのことでとても重たかった。少なく10kgはあっただろう。太田駅前に老婆の娘位の年恰好の方が迎えにきていた。黄色い軽乗用車の後部座席に荷物を積み込み作業は終了する。「ありがとうございました」と御礼を言われた後、太田駅南口に移動する。親切は気持ちがいいが、多少親切を強要する老婆であった。そのようなこともあり、歩きは10時20分頃からとなる。



駅前では自信はあったが小泉線の路線方向を数名に念のため聞くが分からず。それで強風の中群馬県の地図(15万分の1)を広げ小泉線の路線方向を確認する。結論的には正

しい方向に進んでいた。10時30分、大泉への道路標識を見つける。その前方に高架した小泉線の線路があった。10時陸橋を渡り鉄道左側に出る。10時46分、線路沿いを太田方面の2両編成の電車とすれ違う。11時県道2号線に出る。竜舞駅近郊の交差で方向を迷う。線路を探しても道路から見えず。それで太田に続く道路に100m位戻る。この道路は小泉線との踏切があった。ここで小泉線の線路を見つけ安堵する。先程の交差点に戻り県道2号線を進む。まもなく右手に竜舞駅(11時16分)を見つける。駅を通り過ぎようとしたところ、東小泉行きが来る。11時35分、川幅10m位を越えるのに5分位ロストする。11時41分、道路が第14号踏切道を横切る。鉄道の右側となる。11時45分、プリーモ(薪釜ピッツア&パスタイタリア料理:0276-48-5911)に立ち寄る。洒落た店舗であった。ここで料金は924円と多少高めであったが、野菜たっぷりの太麺美味しいパスタであった。このパスタであればもう一度食べたい気持ちである。人気ある店なのか店内には沢山の客がいた。

30分位休息して、東小泉駅を目指す。レジの方によると、この店からは東小泉駅よりも小泉駅が近いとのことであった。30分位歩いてかかるとのことであった。



プリーモ太田店 昼の東小泉駅

12時16分、県立大泉高校前を通過。西小泉からの小泉線の線路を12時35分頃横切る。右手には小泉駅が300m位先にあった。左手には600m位先に東小泉駅が見えた。1ヶ月位前に来た東小泉駅には12時44分到着。ここから暫く鉄道の右側を歩く。13時11分、篠塚伊賀守史跡前を通過。篠塚駅には13時15分到着。13時51分、第29号踏切道を横切り鉄道の左側となる。少し戻り、本中野駅には13時54分到着。



篠塚駅 本中野駅

駅前近くには養老乃瀧があった。14時5分、邑楽（おうら）町立東児童館、中野東小学校前を通過。14時12分、辺が70mの三角形のため池前を通過。14時16分、万歩計で37歩の孫兵衛（まごべえ）川を渡る。その先で道に迷いそうになる。鉄道は見えず。また、道を聞こうとするが誰にも会わず。14時30分、自転車の乗った方に成島の方向を尋ねる。200m位誤った方向に進もうとしていた。成島の方向を教えてもらい軌道修正する。14時41分、多々良沼の脇を通り、成島を目指す。この沼に沿って桜並木が続いていた。歩いて歩いて鉄道が見えず、少し焦燥感が漂う。再確認のため通行人に聞こうとするが、通行人には会わず。



成島駅

館林駅

14時58分、やっと第17号踏切道にぶつかり、横切り鉄道の右側に出る。左手に成島駅が前方に見える。成島駅には15時7分に到着。ここで本来ならアップの予定であったが、次の館林行きは15時48分で待ち時間が41分あり。それで急遽予定を変更して2.6Kmの館林駅まで歩くことにする。1ヶ月前の駅員がいたが、小子の顔を忘れていた感じであったので、東武線踏破について話すのは止めることにする。正月飾りをした正田醤油前を通過した先に館林駅の第2の改札口があった。15時35分到着。ここの若い駅員さんに「今市＝鬼怒川」を除き踏破した自慢話を報告。「すごいですね」とお褒め頂く。館林15時56分の電車で家路に。接続もよく自宅には18時50分到着。万歩計は39,432歩だった。本日は珍しく師走の様相は余り感じなかったが、久しぶりに20Kmを歩き充実した一日となった。